

- 観光産業の落込みは、地域産業の（お茶、陶器等）の低迷、さらには、若者の域外流出にも繋がり、新たな高速交通体系の開業を契機に、**未来技術を活用した観光まちづくりへの取組みを進めることで、既存産業の再生・新産業の創出、人口減少の抑制と交流人口の増加を目指す**

名称：嬉野市未来技術地域実装協議会

プロジェクトチーム会議（2022年度～2023年度） 関係者会議（2024年度～）	
地方公共団体	嬉野市、佐賀県
国（★は現地支援責任者）	国土交通省（★九州地方整備局、九州運輸局）、警察庁（交通局）、総務省（九州総合通信局）、文部科学省（科学技術・学術政策局）
大学	久留米工業大学
民間事業者	嬉野市商工会、嬉野温泉観光協会、嬉野温泉旅館組合、駅前開発事業者、交通事業者

(写真・図：嬉野市提供)

① 嬉野の魅力を全国・全世界に発信する環境づくり【VR/AR】

- デジタルモール・バーチャルモールの構築・コンテンツ作成

②来訪者の安心な移動を支えるモビリティサービス【自動運転】

- ・ 拠点内移動を支えるパーソナルモビリティ・新駅と温泉街を結ぶ自動運転サービス

③地域課題等の解消に向けたデータプラットフォームの利活用【AI、IoT】

- ・ 地域課題等の解消に向けたデータプラットフォームシステムの構築



▲花火大会時のデジタルモールへの流入元媒体

① 嬉野の魅力を全国・全世界に発信する環境づくり【VR/AR】

取組内容

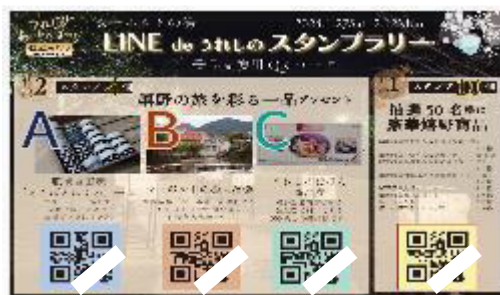
- **デジタルモール嬉野は昨年に続き花火大会のライブ配信を行うとともに、ECサイトの効果を確認する実証を実施（2024年8月～2025年3月）**
 - デジタルモール嬉野では昨年に続き嬉野温泉夏祭りの花火大会をライブ配信、昨年の1.5倍のユーザーアクセスを確認するとともに、モール内にECサイトを構築、冬場の“あったかまつり”の期間に実証を実施
- **バーチャルモール嬉野はこれまでに構築した散歩道の店舗追加を行う一方、新たに塩田地区のバーチャルツアーを追加（2024年12月～）**
 - バーチャルモール嬉野はメインの“嬉野散歩”のオープニング画面の見直しを行うとともに、店舗の追加や新たな地区となる塩田のバーチャルツアーを構築
- **LINE公式アカウントではLINE機能を活用したスタンプラリーの実施、バーチャルコンシルジュによる情報発信によって友達登録者を拡大（2023年3月～）**
 - 地域と地域内外のコミュニケーションツールとなるLINEは、LINE機能を活用したスタンプラリーやバーチャルコンシルジュによる情報提供によって、地域情報を発信する友達登録者が12千人を超過（2024年12月時点）



▲ 花火大会のライブ配信



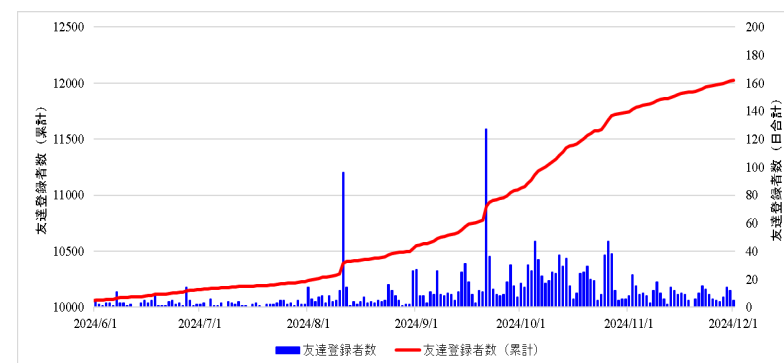
▲ 塩田地区散歩道のオープニング画面



▲ LINEを活用したスタンプラリーの実施



▲ 嬉野市の魅力を伝えるバーチャルコンシルジュ



▲ LINE友達登録者数の推移

② 来訪者の安心な移動を支えるモビリティサービス【自動運転】

取組内容

➤ 実証ルートを確認する市民・関係者によるルート体験会を実施（2023年7月）

- ・ 実証の開始に当たり、中心部商店街区間を中心に、並行する道路区間も含め、市民・関係者による実証ルートを決めるルート体験会を実施
- ・ 参加者57人の意見を踏まえ、地元商店街を走行するルートを実証ルートに決定



▲ルート体験会の実施状況

➤ 自動運転モビリティ「NAVYA ARMA」を使用した試乗体験会を実施（2023年9月～10月）

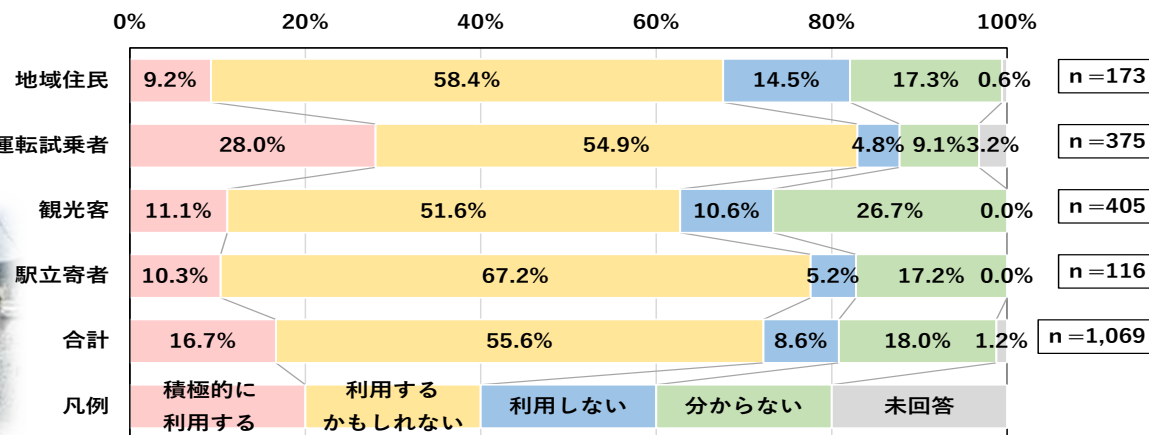
- ・ 令和5年9月25日～10月9日までの15日間、嬉野温泉駅～バスセンター間の公道で自動運転サービスの試乗体験会を、嬉野イメージのラッピングを施した車両を用いて実施
- ・ 延べ860人が参加し、アンケートによると、7割以上の方から「今後の利用意向」が確認されるとともに、実証ルートになった商店街区間では約7割の方が「新たなモビリティが必要」との必要性を確認

➤ 「AI対話型自動運転パーソナルモビリティ」を使用した試乗体験会を実施（2023年10月）

- ・ 令和5年10月2日～10月9日までの8日間、駅前の歩行空間を対象にパーソナルモビリティの試乗体験会を実施。
- ・ 参加者は53人と少なかったものの、約9割の方から「今後の利用意向」を確認



▲体験試乗会のルートと実験車両



▲自動運転サービスの利用意向に関するアンケート調査結果

② 来訪者の安心な移動を支えるモビリティサービス【自動運転】

取組内容

- 試乗会前には自動運転バスの活用策を検討する関係者会議を開催（2024年8～10月）
- 自動運転バス活用の意識づくりや具体アイデアの抽出を目的に、地域関係者（旅館組合/商店街組合/料飲店組合/観光協会）や交通事業者と関係者会議を開催し、体験試乗会に反映
- 駅～中心市街地間の循環ルートで、夜間運行も含めた体験試乗会を実施（2024年10月）
- 体験試乗会には732名が参加し、平・休、夜間帯ともにほぼ満席での運行となり、夜間需要も含めた利用需要や期待の高さを確認
 - 一方、自動運転ルートとなった商店街区間では路上駐車車両や歩行者の乱横断によるオーバーライドも発生し、運行に向けた「路上駐車への対応」や「交通ルール・マナーに対する地域の協力体制」等の課題が確認
 - さらに、雨天やバッテリー不足による運休も発生、自動運転車両そのものの課題も確認



▲ 関係者会議の開催



▲ 体験試乗会の状況（夜間運行）

▲ 試乗会期間の運行状況及び利用者数（R6.10.5～10.28）

項目	全体	運行区分		
		平日昼間	休日昼間	夜間 (金・土)
予定便数	132便	66便	54便	12便
運行便数 (運行率)	113便 (約86%)	54便 (約82%)	48便 (約89%)	11便 (約92%)
延べ利用者数	732名	277名	380名	75名
1便あたりの 利用者数	約6.5名	約5.1名 (定員8名)	約7.9名 (定員8名)	約6.8名 (定員7名)



▲ 自動運転ルートの自動運転率